

分であり、何を求め、どのように計算するか、問題文の読解力の不足も目立っていた。また $1,920 \text{ 円} + 2,400 \text{ 円} = 4,320 \text{ 円}$ としたのも 7 % あった。誤答の極端なものとして、19,200 円とか。

$2,400 \text{ 円} \times 80 = 192,000 \text{ 円}$ というようなものも見られた。問題文からの答の予測ということも指導上考慮する必要があるのではないと思われる。また、 $2,400 \text{ 円} + 80 = 30 \text{ 円}$ とした計算式も、答の予測の指導とともに、百分率の意味理解の不足もあると思われる。除数が小数であることは、児童がこれまでの学習で得た等分除の考え方では処理し切れない抵抗を感じるものと思われる。従って小数の除法では、等分除、包含除のどちらを先に指導するか、また除数の小数をどのような手順で整数に直すか研究する余地が残されている。

(2) 計算

この領域では各問題とも予想正答率をはるかに上まわった正答率であった。異分母の加法・減法の計算がこの領域では一番低いものであった。次にこの問題の 100 名の標本からの誤答例を示しておく。

つぎの計算をしなさい。答えはできるだけかんたんにして に書きなさい。

(1) $\frac{3}{8} + \frac{1}{6}$

(2) $2\frac{4}{9} + 4\frac{7}{12}$

(3) $\frac{3}{4} - \frac{1}{6}$

(4) $5 - 1\frac{3}{7}$

番号	正答率	無答率
(1)	62 %	5 %
(2)	49 %	17 %
(3)	58 %	15 %
(4)	56 %	20 %

誤答例では、(1)では、6、8の最小公倍数の計算まちがいが非常に多かった。このことは前学年での「分数の意味理解」、「約分の意味理解」の問題の正答率が 20 % 台であることと考え合わせ、今後の指導上に考慮すべき問題である。

(3) 図形

この図形の領域は第 5 学年の全領域中もっとも低い正答率 33.2 % を示している。前学年までに比べて、論理的な思考が要求されてきたためと思われる、高学年での図形指導上の多くの問題点が見られる。この領域で特に低い正答率であったのは

- 包摂関係に着目した基本的な図形の理解
 - 円周率の意味理解
- の問題である。

包摂関係に着目した基本的な図形の理解の問題は、問題を 2 つに分けて

- ① 正方形・台形等図形相互の包摂関係
 - ② 対角線が互いに直交するとか等の図形の性質からの包摂関係
- の二つの面からの分類整理をねらった問題から構成してある。

図形相互の包摂関係の問題は

つぎの にあてはまることばを、下からえらんで書き入れなさい。

(1) 平行四辺形は のとくべつな場合です

(2) 長方形は、平行四辺形の中で、どの角の大きさも になっている形です。

正方形 ひし形 長方形 台形
直角 平行

この標本調査による分析は、(1)が 6 %、無答率 1 %、もっとも多い誤答例は、長方形の 43 %、ひし形が 19 %、平行が 17 % あった。特殊と一般の包摂関係の難しさを表わしている。これに対して、(2)では正答率が 53 % と半数以上が正答をしめし、無答も 3 % と少ない。誤答のおもなものは、平行が 25 % となっている。この(2)は、(1)に比してやゝ直観的に判断出来る易しさを持っているので正答率も高いが、この種の問題では問題文の読解力、分析力の育成の指導もたい